

# 新しい授業づくりの文化をつくる 「吹田の授業づくり Update プラン」 校内研究活性化プラン

令和7年12月11日実施 Update プラン通信 第18号 小国 教材研究会

## 小国教材研究会 12月11日(木) 単元名:自分なら、どちらを選ぶか

「吹田の授業づくり Update プラン」校内研究活性化プランでは、教材研究会と授業研究会を1セットとして実施しています。今回は小学校国語科の教材研究会を行いました。授業者より、博物館に協力を依頼し、子供たちが相手意識・目的意識をはっきりと持てるようにするとともに、根拠をもとに主張をする際、理由付けをして意見文を書くことを大切にするという提案でした。齊藤先生より、教科の枠を越えての学びや言語活動の実装のために大切にすること、そして「子に委ね、伝え合う」ために大事な「欲」を持たせるための相手意識・目的意識の重要性についてもご指導いただきました。この学びを基に、1月27日(火)の授業研究会へ向けて、さらなる授業改善に挑みます。

### 授業者の提案

## Why なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

#### 【知識及び技能】

- (1) 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。(2)ア
- (2) 漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。(1)ウ

#### 【思考力・判断力・表現力】

- (1) 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。B(1)ウ
- (2) 「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係性に注意したりして、文章の構成を考えること。B(1)イ

#### 【学びに向かう力、人間性等】

- (1) 進んで理由を吟味し、学習の見通しを持って、考えを文章にまとめようとする態度を養う。

## What 何を学ぶのか

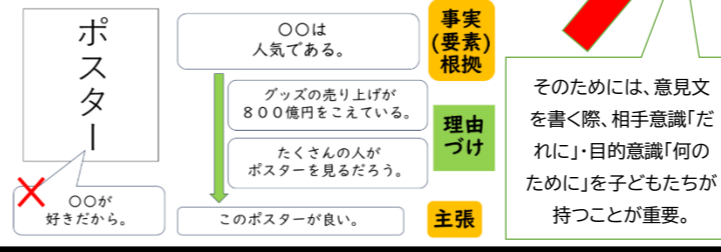
子供達の学習対象は？

#### 【本単元で学ぶ見方・考え方】

自分の考えの理由を掘り下げ、吟味する。  
書き表し方を工夫し、自分の意見を分かりやすく書く。

#### 【本単元で学ぶ学習過程】

意見文を書く上で、事実・根拠→主張で終わらず、  
具体的な「理由づけ」を大事にする。



### — 講座の目標 —

吹田市の全小中学校が学習指導要領に基づいた授業づくりに取り組む。

### 授業づくりのプロセス

#### 単元を創る

- ・育成すべき資質・能力を明確にする
- ・見方・考え方の成長をイメージする

#### 学習指導要領に基づいて

- ・目指すゴールに対応した問い
- ・教科ならではの学習過程（プロセス）
- ・見方・考え方を伸長させる明示的指導

#### 本時を創る

### 授業づくりにおいて大切にしたいこと

子供が切実性・必然性のある問いを持つ

教師が学習過程（プロセス）も能力であると捉える

子供が自分自身の成長を実感する

## How どのように学ぶのか

子供達の学習過程は？

相手意識・目的意識を持たせるため、実際に博物館に協力を依頼し、「博物館が掲げるポスターを選ぶ」ための意見文を書く活動を行う。

時	学習活動	見方・考え方を働かせている子供の姿
1	学習課題の設定 初発の意見文	・ポスターについて自分なりの意見を持ち、意見文を書く① ・博物館の人への質問を考える
2	学習計画をたてる	・博物館の人の返答を聞く ・意見文を書く目的を確認し、読み手を把握する ・学習計画をたてる
3	構成をとらえる 効果をとらえる	・教科書 P92,93 を読み、考えと理由のつながりについて考える ・教科書のイチョポスターの構成や要素・効果をとらえる
4	構成をとらえる 効果をとらえる	・教科書から、意見文に必要な構成や要素をとらえる ・博物館のポスターについて意見文を書く② ・ルーブリック作成
5	構成をとらえる 効果をとらえる	・博物館のポスターの構成や要素・効果をとらえる
6	伝えたいことを明らかにする	・自分の意見を決め、その意見を支える理由を掘り下げて考える ・博物館のポスターについて意見文を書く③ ・ルーブリック確認
7	構成を考える 考えをまとめる	・自分の意見が伝わりやすい言葉の使い方、構成を考える
8	文章を書く	・筋道の通った文章になるよう考えながら書く ・博物館のポスターについて意見文を書く④
9	交流会	・発表を聞き合い、意見が伝わりにくい点について、改善策を考える
1	推敲する 比較する	・意見をもとに、文章の構成、言葉の働きに着目しながら推敲する(意見文を書く⑤)
0		・初発の意見文と比べて、成長を実感する

### 【単元終了時の目指す子供の具体的な姿】

- ・理由や根拠を明確にして、自分の意見を持つことができる子ども。
- ・相手に伝わりやすいよう、工夫して文章を書くことができる子ども。

2種のポスター



本時の目標			
・自分の考えと、その理由や事例との関係を理解する【(2)ア】			
・考えと理由や事例の関係が明確になるよう書き表し方を工夫する【B(1)ウ】			
働かせたい見方・考え方			
・自分の意見を決め、その意見を支える理由を掘り下げて考える			
・博物館のポスターについて意見文を書く			
学習過程	構造と内容の把握を確認	情報の収集と考えの形成	情報の収集と考えの形成
子供の問い	・博物館ポスターの構成と要素を思い出そう	・A案とB案どちらにしようかな ・なぜそう思ったか考えよう	・読む人を納得させるにはどんな理由がいいかな ・読む人に理由が伝わるように、どんな工夫をしようかな
本時の学習活動(○)、内容	○ポスター要素の確認 ・前時に読み取ったポスターの構成と要素を確認する	○自分の意見を決め、理由を考える ・A案とB案の構成と要素を比べ、自分の意見を決める ・そう決めた理由や根拠を考える	○理由や根拠を明確にする ・相手意識を持ち、読み手が納得できる理由を考える ・ポスターだけでなく、博物館のHP、小学生(読み手)の好みなどを考慮しながら理由や根拠を考える
見方・考え方	・ポスターの構成と要素が、見る人にどのような印象を与えているか、どのような働きをしているかを考える	・構成と要素を吟味し、自分の意見を決める	・情報と情報を結びつけながら、自分の意見をより強固なものにするための理由を考える
指導上の留意点(●)	●前時に分析を書き込んでいる、ポスターデータを確認させる	●「考えと理由のつながりに着目しよう」で学んだことを想起させる	●児童が「インターネットで意見文を調べたい」「いろいろなポスターを見てみたい」と希望したときは、自由に調べさせる
評価規準及び評価の方法(★)		●データなどの情報があると、より根拠が明確になることを伝える	●「考えと理由や事例の関係が明確になるよう書き表し方を工夫する【ワークシート評価 B(1)ウ】
		●ミライシードなどでアンケートをとり、根拠とした児童がいれば、作成してもよいこととする	
		★自分の考えと、その理由や事例との関係を理解する【ワークシート評価(2)ア】	

講師  
NPO法人  
エデュ・ネットワーク・プラン 代表理事

齊藤 一弥氏

横浜市立小学校教諭、横浜市教育委員会勤務、横浜市立小学校校長、島根県立大学教授を経て、現職。  
現行学習指導要領の作成に関わるとともに、高知県において学力向上総括専門官、教育課程推進専門官として授業改革に取組み、成果を上げている。



# Why

なぜ学ぶのか  
子供達が身につけるべき資質・能力は？

# What

何を学ぶのか  
子供達の学習対象は？

# How

どのように学ぶのか  
子供達の学習過程は？



## 1 言語活動の実装に向けて

Q:ポスターはいったい何のために？ A:集客・周知

「誰を対象にしているか」ということをまず考える必要がある

では、今回のポスターは…



ポスター…非言語テキスト(言語で書かれていないテキスト)

テキスト(ポスター)を「読む」ということをする  
「読む」…ポスターの字を読む  
↓ではなく

ポスターの構成やそこにある情報、どんなメッセージがあるのかを読み取る

【把握】ポスターの目的や意図(集客・周知)をはっきりさせておく。

【精査・解釈】ポスターにどのような情報が入っているのか、どんなメッセージがあるのか読み取る  
※客観的な分析が行われる

【考えの形成】「わたしは〇〇だと思う」「こうしたふうがいいのにな」という主観が入る  
※批判的思考

【共有】自分の意見を伝えたり、他者の意見を聞いたりすることで「確かに、自分にはない視点だ。」  
というように「個の中の多様性が伸長する。」

これらを、国語では「言語テキスト」で行うので、言葉で読んでいく。が、今回は非言語テキストで。

子どもたちが「書く」意見文(言語テキスト)では…

【構成】三角ロジックで考えていく



「事実」があって、「こちらのポスターの方がよい」という「結論」の間に「理由」がなければいけない。  
この【構成】と【考えの形成】を行ったり来たりすることが大切。  
→一旦書いたらそれで OK ではなく、「こんな読み方もできるのではないかな。」「もっとこう書いた方がいいかな。」というように！

【推敲】大切なのは、他者意識。つまり、相手の立場にたって考えているか。アウトプットが伝わるかどうか。  
→考えの形成のレベルを上げていかなければならない！

“三二”でいいから共有を入れていく

誤字脱字をなくす。段落を整える…形式的で表面的なもの  
大事なのは、自らの考えが他者に伝わるようになったか。自分の主張がクリアになったか。

「子ども向けだったらイラストがあったり、かわいらしい方がいい」とか「歴史好きには展示物がよくわかる方がいい」というように、ポスターというものが「何のために作られて」「誰を対象にしているのか」をはっきりさせる

さらに言う…「どんな立場でも」というふうには話をしていく必要がある

「子ども向け」と固定していると選ぶ方は決まってしまう。

博物館…大人も子どもも、いろいろな人が来る  
ポスター…お客さんを集めたり、博物館を訪れる人へのお知らせをしたりする

言語活動の「目的意識」「相手意識」というものを明確にしているという前提のもと、学びを描いていく

### 図工の鑑賞のプロセス

『小学校学習指導要領解説 図画工作編 平成29年7月』p72  
第3学年及び第4学年「B鑑賞」(1)

ア 身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、制作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。

+ 感じ取ったことや思ったこと、考えたことなどを、話したり聞いたり話し合ったりする、言葉で整理するなど、言語活動を充実することも重要である。  
※同学習指導要領解説p74 cf.p121第4章の2「言語活動の充実」の項有り

### 【考えの形成】

主観による分析をして、より自分らしいアウトプット(文字言語によって)をする。

その時、ずっと一人で考えていて本当にいいのか？

一人だと考えの形成は、ほぼとまったままになってしまう。

どんな共有を？→非言語、言語テキストの比較

「あなたは何を書いたの？ そうなんだ。」ではなく、ポスターを見直し、問い直す…ポスターとしての役目を果たしているのか  
例)「C」のポスターは、かわいらしいイラストがあるから〇〇に掲示した方がいい。Dは、大人向けだから●●の方がいい。」

価値や良さを、根拠や理由を明確にして話し合うメガネが大事

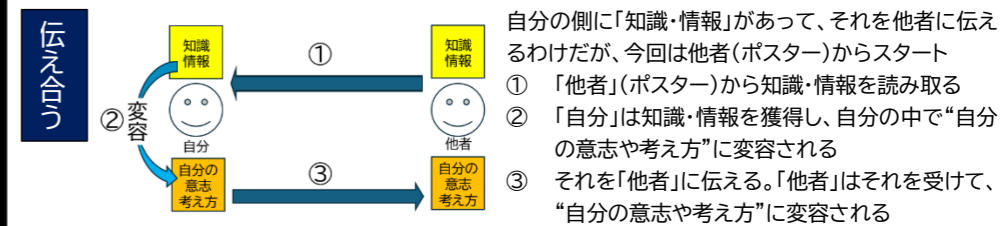
## 2 単元を営む上で、他者の存在があるかどうか

○なぜ、伝えるではなく「伝え合う」が大事なのか？ 授業校は国語科で「伝え合う」がテーマ  
→国語という教科は何のために？→「言語によって、豊かな生活を営む」ため  
例)本が読めるようになり、読書をする、様々な見方や感じ方を会得でき、自分の生活がより豊かで、気持ちのいいものになっていく。

豊かな生活を営むために、言語をつかってどんなことをしているのか…



・「自分」は「ポスター」から読み取ったことを書くという仕事をする。  
でも、今回は他者がポスターなので相手がない…。→「作者」との対話が始まる。  
・作者にどのような意図があったのかを聞く。  
「自分はこう考えた。」「なるほど、そうだったんだ。」という「作者との対話」を終った推敲が始まる  
「なるほど、そういう意図があったのか…。じゃあ、自分の意見文はこう書いてみよう。」



この【伝え合う】方法は、必ずしも音声言語で自分が伝えたから、音声言語で返ってくるわけではない。伝え合う方法は多様。大事なことは、他者がいるという相手意識。

どちらを選ぶ？  
は  
どちらが好き？  
ではない。

【互恵的関係】「伝え合う」ということが、他者のためにも、自分のためにもなっている  
だからこそ、「話したい」「聞きたい」「書きたい」という「欲」を持たせることが大事  
「なぜこれを書いているのか」に常に戻りたい。

受講者の感想  
●図工とのつながりという視点はなく、新たに学ぶことができました。  
●普段あいまいになっている根本のお話をさせていただけるので学びになる。  
●子に委ねることで、深い学びを得る授業ができると感じました。